

先人が遺したものの、引き継がれる精神



Event Topics_

第29回武左衛門ふる里まつり

歩け、願い届けるために

「えいえい、おー」。8月14日、武左衛門広場に響く気合の入った掛け声。武左衛門に扮した高橋俊裕さんを筆頭に、農民の衣装に身を包んだ人々が一斉に武左衛門広場を出発しました。道中では、地元の人たちによる「振る舞い酒」が用意され、お酒とそれを手渡す人の笑顔が一揆を起す人たちの心と体を潤わせていました。

「武左衛門ふる里まつり」の会場となる道の駅・日吉夢産地までたどり着いた一行を出迎えたのは、日吉小学校児童らによる武左衛門太鼓の演奏。その力強い演奏が終わると、代表者である武左衛門役の高橋さんが、ステージ上で甲冑秀文町長への訴状を読み上げ、しっかりと自分たちの願いを手渡していました。

踊れ、心赴くまに

会場の真ん中に設置され

た太鼓台。そこから響く太鼓の音と流れる音楽に合わせ、盆踊りを披露する地元の人たち。次々と変わる曲に合わせて、多種多様な盆踊りが展開されました。また、毎年恒例となった盆踊りの最後「マイムマイム」では、参加者総参加で、この日一番の盛り上がりを見せていました。

盆踊りの後は、ステージで日吉地区の子ども達による多彩なパフォーマンスが披露され、訪れた人たちは、懸命に踊るその格好い姿に、盛大な拍手を送っていました。また、今年は大鼓集団「魁」も出演し、迫力ある演奏で会場にさらなる花を添えました。

そして、お祭りの最後を締めくくると「打ち上げ花火」。大きな音を立て、夜空にはじける花火の数々に、それを見上げる人たちは感嘆の声をあげていました。

武左衛門が地域のためにと命を賭けて遺したものを、それを引き継ぐ人々の熱い思いと、純粹に年に一度のこのお祭りを楽しむ心からの笑顔がそこにありました。